

—「女性活躍サポート・フォーラム」2020年度 新プログラム—

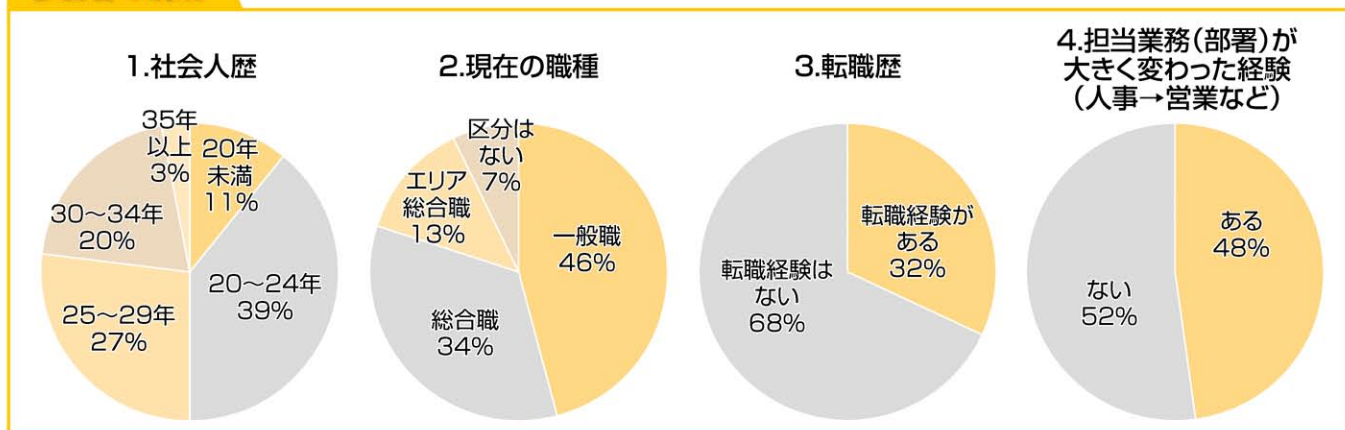
これからの仕事と生き方を考える

I.M.T.(It's My Turn)セミナー 開催レポート

40代～50代の非管理職女性社員を対象に、仕事や生活をより充実したものにするためのきっかけを提供し、企業内でいっそう活躍していただくことを目的としたプログラム「これからの仕事と生き方を考える I.M.T.(It's My Turn)セミナー」※。2020年度は新型コロナウイルス感染防止の観点から、オンラインにて開催し、全4回のプログラムに40社56名の方々がご参加くださいました。

※当財団の「女性活躍サポート・フォーラム」会員様向けのプログラムです。

参加者の構成



※各回の登壇者の所属は開催当時のもの

第1回 テーマ「自分を知る、他者を知る」 2020年11月10日開催

本プログラムの開催にあたり、当財団主任研究員の山谷から2019年度調査「女性正社員50代・60代におけるキャリアと働き方に関する調査 一男女比較の観点から—」より、以下のような調査結果を報告しました。

- ①女性には、50代に再び「仕事を通じての成長」「仕事の面白さ」「信頼を高めること」を重視するようになること
 - ②キャリアのつながり(経験を次に活かす)を意識している人は、60代でも達成感を感じていること
 - ③仕事の面白さを重視している人は、60代でもモチベーションが下がっていないこと
- また、調査結果を踏まえて女性が50代でいっそう活躍するための提言をお伝えしました。(詳細は、<https://www.jiwe.or.jp/research-report/2019>でご覧いただけます。)



第2回 テーマ「自分らしさを活かす Part1」 2020年12月8日開催

パネルディスカッション『キャリアの転機を人生に活かすために』

ご登壇者

片島 理恵 様(株式会社荏原製作所 標準ポンプ事業部 ICT推進部)
丹野 みどり 様(株式会社NTTデータ 技術革新統括本部 企画部)
長澤 綾子 様(株式会社ダスキン 訪販グループ 東京地域本部)
ファシリテーター：座間 美都子(当財団 事業推進部担当部長)

一般企業に勤務する女性で、新しい仕事に挑戦してこられた3名をロールモデルとしてお迎えし、パネルディスカッションを実施しました。これまでの仕事のご経験や、キャリアの転機をどのように向かい合い、どう乗り越えてきたか等についてお話いただきました。



第3回 テーマ「キャリアと健康／自分らしさを活かす Part2」 2021年1月13日開催

記念講演『女性の一生はエストロゲンに左右される』

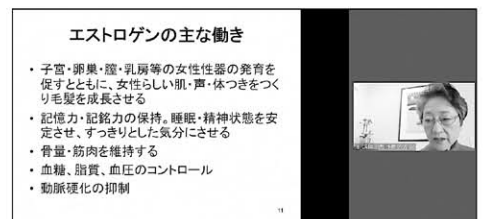
ご登壇者

天野 恵子 医師

野中東睦会 静風荘病院特別顧問、日本性差医学・医療学会理事、
性差医療情報ネットワーク理事長

50代前後から特に気をつけたい「女性の健康」について、日本に「性差医学・医療」の概念を紹介し、女性を専門に診療する『女性外来』のパイオニアとしてご活躍されている医師の天野恵子先生にご講演いただきました。

女性の発育や記憶力、睡眠・精神安定等にも関わる重要な働きをする「エストロゲン」についてのお話を軸に、加齢変化の性差や更年期の不調の原因、健康でいられる生活のための自己管理の重要性等、医師の視点で詳しく解説いただきました。



第4回 テーマ「自分の可能性を拓く」 2021年2月4日開催

パネルディスカッション『変化は進化 ～私たちのターニングポイント』

ご登壇者

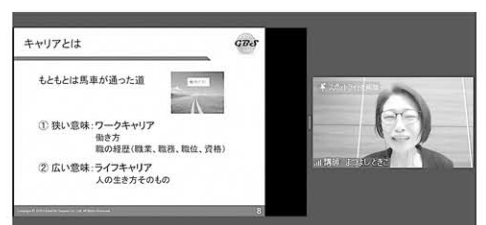
浜田 敬子 様(ジャーナリスト、前ビジネスインサイダー統括編集長、元AERA編集長)
手塚 貴子 様(有限会社フルーヴ 代表取締役、「旅する食べる通信」編集長)
中原 知美 様(四季ごはん 晴れ間。店主)

一般企業勤務から独立・転職され、新たなキャリアへシフトされた方々によるパネルディスカッションを実施しました。各パネリストのキャリア変更のきっかけ、キャリアのつながりの活かし方や、組織に属することで得られたこと等についてお話いただきました(次ページ参照)。



第1回～第4回 キャリアデザイン研修 (講師:松好 登紀子 氏)

上記プログラムの他、当財団客員講師の松好登紀子氏による全4回の「キャリアデザイン研修」を実施。講義の他、カードを使ったコミュニケーションワークやグループディスカッションなどを交えながら、自身のこれまでのキャリア、経験、価値観を見つめなおし、新たな気づきや仕事へのモチベーションの醸成をガイドしていただきました。



参加者の声

- ・キャリアを描くことは、若い時のもの…のような感覚でいましたが、40代半ばで、自分を振り返り再度キャリアを描くことは必要なことだと実感しました。
- ・これからの20年について真剣に考え、見つめ直す機会となりました。先生方やパネラーのみなさんのお話は、どれも興味深くとても参考になりました。
- ・異例のオンライン研修でしたが、集合形式と感覚はほぼ遜色なく受講ができました。
- ・なぜ自分がこのセミナーに参加することになったのか、モヤモヤした中での初回受講でしたが、初回で自己肯定できたことで少し救われた感じがし、社外の同じ世代の参加者と話すこともできたので前向きになれました。
- ・参加者のみなさんとのコミュニケーションの中で、同じように感じて悩んで頑張っている仲間がいることを知り心強く感じました。

全4回のプログラムのうち、最終回では『変化は進化 ～私たちのターニングポイント』と題し、独立・転職経験のある3名の方によるパネルディスカッションが行われました。

本誌では、パネラーのみなさんからお話をいただいた内容の一部をご紹介します。

て づか たか こ
手塚 貴子 氏 (有)フルーヴ代表取締役／「旅する食べる通信」編集長

これまでのキャリア

- 1984年 大学卒業後商社入社、広告宣伝を担当
- 1986年 商社退社
- 1992年 派遣社員を経て営業職として広告代理店に入社
- 2002年 個人事業主、ベンチャー企業で広報室長を経て、起業
主な事業は取材編集、販売促進、HPの管理運営等
- 2011年 法政大学大学院入学
(2017年公共政策学博士後期課程修了)
- 2013年 新潟市に単身移住
現在に至る



8年前に東京から新潟市に単身移住をしました。今は東京に本社を置いたまま、新潟で農作業に携わりながら、全国各地の“食のつくり手”の魅力を伝えつつ、それぞれの生産者が丹精込めて育てた魅力あふれる食材を定期的に届ける“食べもの付き情報誌”を編集・発行しています。

天気や自然はどうにもなりません、人間の問題はどうにかかります。広告代理店で営業として勤務していた頃の経験から、問題が発生したときにどちらが悪いかと責め合うのではなく、どこに原因があったのか、今後はどうするかを考えていくことが大切だということを学びました。そういうふうと一緒に考えることができる人と仕事をしたいと思っています。Give & Giveの精神を大切に、自分に対して他人に対しても“誠実”でいたいですね。助けてほしい時には「助けて」、手伝ってほしい時は「手伝って」、間違ってしまったら「ごめんなさい」と正直に伝える。そのことで去る人がいたり、仕事なくなってしまうこともあるかもしれない。でも、うそをついてもいい関係にはなりません。それでも一緒にやろうと言ってくれる人たちとのつながりを大事にしたいですね。

なか はら とも み
中原 知美 氏 四季ごはん 晴れ間。店主

これまでのキャリア

- 1990年 大学卒業後、広告会社入社
媒体部門(TV)担当
- 1997年頃 趣味として料理にはまる
- 2000年 営業担当に異動
- 2011年 退職
各国で食べ歩き、ワイナリー訪問、料理を学びながら、料理講師、和食店で修業も並行しつつ、店舗開店の準備を開始
- 2013年 四季ごはん 晴れ間。を開店、現在に至る



私は広告会社で営業として働いてきたのですが、趣味でもあった飲食の世界に40代で飛び込みました。飲食ビジネスは知らないことだらけで、長い修行をしたわけでもなくこれまで経験してきた業界と異なる飲食の世界ではありましたが、できないことはないと思ってやっています。それは、前職で組織に所属してきたからこそ培ってきた能力かなと思っています。広告営業時代は、お客様から与えられ

たミッションはできて当たり前、それ以上の答えを返してほしいと思って依頼してきます。予測できないことが発生したとしても、まわりの先輩方がもつそれぞれの“つで”を辿って、必ず解決する力を学んできました。

異業種への転身は、これまでの人と人のつながりの上に、新しいステージが広がります。好きということを経営にすることは、曲げざるを得ないことも多々あります。自分だけの思いだけでは済まない部分があることも身を持って経験してきました。それでもブレずに続けること、自分の信念を曲げないことが一番重要だと思っています。年齢を重ねていくとクリエイティビティの部分は衰えてくるかもしれませんが、その年齢なりのステージのインプットを続けていくことを止めない。この努力がアウトプットしたときに自分にとって満足につながれば、自分の仕事を好きになり続けることができると思います。

はま だ けい こ
浜田 敬子 氏 ジャーナリスト、前ビジネスインサイダー統括編集長、元AERA編集長

これまでのキャリア

- 1989年 大学卒業後、朝日新聞社入社
前橋支局、仙台支局、週刊朝日編集部
- 1999年 AERA編集部 異動
- 2006年 出産。10カ月の育児休業取得
- 2014年 女性初のAERA編集長就任
- 2017年 退職
ビジネスインサイダージャパン 統括編集長に就任
- 2020年12月 ビジネスインサイダージャパン 統括編集長退任



私は新卒から28年間、一度も転職せずに、いわゆる大企業で大好きな週刊誌の編集に携わってきました。ただ、深夜までの激務が毎週という状況でしたので、自分の将来を考えるという余裕すらありませんでした。50代で編集長を辞めたときに、ぽっかり穴が開いたような放心状態になったのです。「この会社で何をしたいんだろう」という気持ちになりました。

新しい部署に異動して半年経った頃、メディアの現場に戻りたいという気持ちが大きくなってきて、会社を辞めてフリーライターになろうかと考えていた時に2つの偶然が重なりました。一つはベンチャー企業の社長でもある友人がちょうどアメリカから新しいメディアを日本で立ち上げようとしていたところで、飲み会の席で「編集長をやってみないか」と声をかけていただいたことです。もう一つは『LIFE SHIFT』の著者リンダ・グラットンさんが来日講演されたときに、モデレーターを務めたことです。楽屋でリンダさんに「早く定年が来ないかと思っているんです」と話したときに、「あなたの年代の平均寿命は94歳。それまでの30年間は何をやるの?」と言われたのです。60歳を過ぎた自分は何をするんだろうと初めて真剣に考えました。いまのニュースメディアの主戦場となっているネットビジネスの仕事に関わること、そしてゼロから新規事業を立ち上げるという、自分の欠けていたパーツが埋められるのではないかと思います。

若い人たちにも良質なニュースを読んでもらいたいという大義を持って、転職して3年間はこれまで以上に働きましたが、この経験がなければフリーランスの自分はいなかったと感じています。

☆会員制フォーラム「女性活躍サポート・フォーラム」は、企業のダイバーシティ推進ご担当者、女性管理職候補、女性管理職、40～50代の女性社員のそれぞれを対象とした充実したプログラムを年間でご提供しております。
それぞれの立場でネットワークを構築し、研鑽を積んでいただくことができます。
(2021年度は原則オンラインでの開催を予定しております。)

I.M.T.および会員制フォーラムに関する詳細・お問合せは、21世紀職業財団 女性活躍サポート・フォーラム事務局まで
TEL:03-5844-1665 E-mail:sf_contact@21jiwe.jp ※メールアドレスを変更いたしました。